

金 網 (14年9月～10月調査)

生産は輸出、内需とも低迷した影響を受けて、2桁以上の大幅な減少と、大きく落ち込んでいる。製品価格は輸入品に引きずられる形で下落していることから、企業の採算は悪く減収減益の企業がほとんどであり、零細層の中には操業停止に陥った例もみられる。その一方で、付加価値の高い製品を扱う企業では、わずかではあるが増収増益となっている。今後の見通しは、輸出、内需とも低迷が続き、零細層が特に厳しい状況に陥るとみられる。

業界の概要 金網は、防護、補強、選別、分離等の機能があり、織網、蛇籠（じゃかご）、菱形網、亀甲網、クrimp網等に大別されるが、品種、生産金額、企業数は織網が最も多い。用途をみると、織網はフィルターとして種々の工業用に使われるほか、自動車や電気・電子製品の部品や家庭用雑貨として使われている。他の網はビル建築の基礎工事などの補強用、河川改修工事用及び土砂崩れ防止用、各種のフェンスなどに使用される。このように、金網の需要業界は、建築、雑貨、化学、自動車、電気等の種々の分野にまたがっている。

金網製造業の規模をみると、全国では従業者20人未満の企業が70.0%を占め(平成12年、経済産業省『工業統計表（品目編）』、従業者4人以上)、うち家族労働主体の企業はその半数以上を占めるとみられる。大手企業でも従業者数は100人台に過ぎない。

また、需要分野が広範で品種が多様化しており、すべて自社生産で対応することは大手企業でさえ難しいため、一部を外注するのが一般的である。

大阪産地の特徴 府内の金網製造業は、平成11年で事業所数128、製造品等出荷額 255億6,500万円で、全国に占める地位は、各々18.9%、13.1%で事業所数は1位、出荷額は香川県に次いで2位となっている(平成12年、経済産業省『工業統計表（品目編）』、従業者4人以上)。他産地が特定の品種に特化している場合が多いのに対して、大阪産地はほとんどすべての品種が生産されており、また、中小企業の割合が高いのが特徴である。

ただ、各企業の生産品種をみると、中小企業の大半は織網だけであり、中堅・大手は二品種以上を生産する企業が多い。

集中地域は、松原市阿保地区、東大阪市及び四条畷市である。このうち松原市は、織り目が極めて細かく、生産に技術力の要求されるハイメッシュ（極めて細かい織り目）のステンレス製金網の製造業者が大半を占めており、国内でのハイメッシュ織金網の生産シェアも相当高いものと推定される。また、他地域と比べて従業者数2～3人程度の小規模企業が多く、輸出割合が比較的

高い企業が多い。

輸出については大阪府が全国の8割強を占めていると推定され、品種はハイメッシュの織金網が多く、対米向けの比重が大きい。

生産はさらに落ち込む 金網の生産動向をみると、金額ベースでは、平成11年半ばから12年秋頃まで、ハイメッシュのステンレス製織金網を中心に順調に推移していた。しかし、13年1月以降減少に転じ、14年に入ると前年同月比で2桁以上の減少と、生産は大きく落ち込んでいる。

ただ、企業規模や生産品種によってかなりばらつきがあり、小規模企業の中には生産を停止した例もある一方で、落ち込みが軽微にとどまっているか、好調な企業もごくわずかではあるものの存在する。

品種別の動きをみると、土木・建築工事向けのクrimp網、菱形網及び蛇籠などは、公共工事が抑制される中でも法面工事（のりめんこうじ、土砂崩れ防止用が主）及び河川改修工事用として、12年春頃までは底堅く推移していた。

これは、網目に植樹できるなど自然環境保護面で優位にあるとして、コンクリートで固める工法からの置き換えがあったためである。

しかし、近年、河川護岸工事で自然環境を保全できるコンクリートブロックが開発され、工事コストも金網に比べると低減されたため、12年夏以降はこれらの網の需要が急速に減少し、生産は前年同月比で30%以上の大幅減少が続いている。

織網も総じて減少基調にあるが、特に、輸出向け網の減少は目立っている。太番手の金網は、価格が日本製より30%強安いとされる中国製品に駆逐され、13年以降輸出がほとんどなくなった企業が増加している。さらに、一部の細番手網でも、中国製品の対米輸出が増加しており、日本製は輸出市場でシェアを落としつつある。

また、織り目が細かく厳しい精度が要求されるハイメッシュのステンレス網についても、携帯電話向け等IT機器関連向け需要がふるわないうえ、機械、化学関連業種等多くの業種向けが低迷している。さらに、需要家の海外進出によっても少なからず影響を受けている。ただ、一部は、金額的にわずかではあるが、プラズマディスプレイ関連や電磁波遮蔽用に大きく伸びているものや、食品製造工程で環境や耐腐蝕性で優位にあるとして従来の合成繊維製のフィルターから置き換えられる例もあるなど、好調なものもみられる。

減収減益がほとんど 原材料の鉄線及びステンレス線の価格が低位安定しているものの、製品価格も、需要低迷に加え、中国製品が徐々に日本市場にも進出していることから、中国製品の価格に引きずられる形で、前年同期比で2桁以上の下落となっている。このため、減収減益の企業がほとんどであり、大幅な赤字になった企業も多い。

零細層の中には、金網を生産しても売れず、在庫が積み上がるだけとして、操業を全面的に停止し、環境の好転を待つとする例も少なからず見受けられる。その一方で、売上げは減少したものの、増益企業もわずかではあるが存在する。

好調な企業には、技術を蓄積し最新の設備によって、他企業の追従が困難な付加価値の高い製品を扱い、販路も確立しているところが多い。また、汎用品であっても、生産性の高い自動化設備を導入し、大幅なコスト削減に成功することによって、底堅い収益をあげている企業もある。

設備投資については一部で、精度の高いハイメッシュ網の製造ラインを増設した例や、合理化のために新鋭機器を導入した例があるが、大半の企業では需要低迷から消極的である。また、中高年齢労働者を中心に、早期退職者を募集した企業も見受けられる。

中国に注目する企業が増加 一部大手が、数年前に中国で合併の製造工場を設立したが、対米、対日輸出が徐々に軌道に乗りつつある。原料の線材は日本からの持ち込みがほとんどではあるが、中国産線材の質も徐々に向上していると言われ、中国産が使えれば、価格競争力はさらに強まると期待している。また、中国製金網の我が国への大量輸入を意図して、現地事務所を開設した企業も出てきた。

さらに、日本のみならず欧米の有力ユーザーの進出が急増しているため、これらの企業への納入を狙って大規模工場建設を計画している企業も出るなど、中国への進出を計画する大手、中堅企業が増加している。

需要開拓に各企業とも注力 中規模以上の企業の中には需要低迷に対処するため、金網の加工や新製品開発などで需要開拓を図る企業が出ている。例えば、金網を単体で出荷するのではなく、需要家指定のサイズに切断、折り曲げ、指定部品の溶接などの加工を行っている。また、ステンレス以外の、従来の織機では織れないとされた素材を使った金網を試作して、電子機器部品や化学、食品メーカーに売り込みを図る企業もある。また、展示会やインターネットを通じて製品紹介に努めることにより、金網の新規用途開拓に努める企業も出てきている。

意欲的な企業は、金網が使用される分野はまだまだあると言う。需要家のニーズを掘り起こし、フィルターなどの機能を生かして他の部品からの置き換えを図れば、金網の需要は増大すると確信している。そのため、大学や試験研究機関と共同で、金網に向く素材開拓や高性能織機の開発の段階にまで遡って、新製品開発に努めている。

例えば、建築基礎工事向けに、従来製品より軽くて強度を高めた網、衣服に用いる電磁波防止用スクリーン、ファッション素材向けのカラー塗装したスクリーン、日焼け防止用のキャップ向けスクリーンなど様々な新製品を開発している。

ただ、これまで問屋や商社の注文に応じて金網を織るだけであった企業も多く、いまさら需要開拓などできないという声も聞かれる。

今後の見通し 輸出は中国製品との競合で回復は期待できず、国内需要も全体としては低迷するとの見方が多い。しかし、金網の需要は根強いものがあり、中堅企業の中には新製品を開発することによって堅調に推移する例もあると見られる。

ただ、汎用品を生産することが多い零細層では、将来性はないとして後継者を育成していないメーカーもみられ、現在の経営者が引退すれば、廃業に至る可能性が高い。

(柴田)